

## 第 32 回大会企画公開シンポジウム

2011 年 6 月 12 日（日）9:30-12:00 共通講義棟 2 号館 201 教室

### 偏見の形成メカニズムと低減のための教育 —誰一人切り捨てられない社会の構築に向けて—

#### ●企画・コーディネーター 加賀美常美代（お茶の水女子大学、大会準備委員長）

近年、日本に住む外国人登録者数は増加一途をたどり、1978 年に比べると、2.85 倍となっている。また、日本国籍を有する海外長期滞在者及び永住者の数も 20 年前のほぼ 2 倍となっている。このように国内外でのグローバル化が進行する中で、文化的多様性のある人々との共生は現代的・社会的課題である。しかしながら、偏見形成のメカニズムと偏見低減のためにどのような教育をしたらよいかというテーマについては、重要かつ深刻な問題であるにもかかわらず、これまで本学会では正面から取り組んで来なかった。そこで、第 32 回大会企画公開シンポジウムでは、偏見形成のメカニズムと低減のための教育実践をテーマに、この問題と課題を理論と実践の両面から、また、当事者性を考慮しながら検討していくこととする。多文化社会において多様性の尊重とは何かを探り、誰一人切り捨てられない社会、学校コミュニティを目指し、4 名の多彩なシンポジストに登壇していただき、多角的な視点から検討していくことにする。当日はフロアの方々と偏見の低減の可能性、異文化間教育が果たす社会的役割についても共有し、議論していきたい。

#### ●シンポジストと発表テーマ

##### ○佐藤千瀬（聖学院大学）「幼児の差異化、偏見形成のプロセス」

日本の幼稚園で日本人幼児と外国人幼児（両親の一方または両方が外国籍の子ども）が、なぜ、どのような前偏見（幼児独自の偏見）を生成するのかを事例、フィールドワークを通して明らかにしていただく。

##### ○手塚章太郎（ユニークフェイス）「差別体験と偏見低減の可能性：当事者の立場から」

当事者の立場から、これまでの人生を振り返り差別体験と偏見の可能性を語っていただく。見た目に問題を抱えた人がどのような差別を受けているか、まずはその語りを傾聴し認識することの重要性を共有したい。

##### ○工藤和宏（獨協大学）「偏見低減の実践：ヒューマンライブラリーを通して」

ヒューマンライブラリーの実践を通して、運営者である学生がどのような気づきを得たか、「他者」との半構造的対話を通じた偏見低減の可能性がどのようなものか、データから示していただく。

○浅井暢子（東北大学）「偏見・差別の形成とメカニズム理論」

社会心理学の知見に基づき、偏見の形成過程とその低減方略について理論的に概説していただいた後、ほかの 3 名の発表者の実践や研究結果、当事者の声をもとに理論的に検証していただく。

●コメンテーター

横田雅弘（明治大学、異文化間教育学会理事長）

上記のシンポジストの登壇後に、総合的なコメントをいただく。

\*本公開シンポジウムは、2011 年度公文国際奨学財団の助成のもとで行われる。

\*本公開シンポジウムはどなたでもご参加いただけます。